

週報

Rotary



福岡中央
ロータリークラブ

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



世界に希望を生み出そう

「CREATE HOPE in the WORLD」

2023-2024年度 国際ロータリー会長

R.Gordon R.McInally

「ロータリーを開き、ロータリーを前進させよう」

「再び動かす我らの歴史」

国際ロータリー第2700地区

2023-2024年度 福岡中央ロータリークラブ

2023-2024年度 ガバナー 吉田 知弘

会長 怡土 順治 幹事 泥谷 高博

本日の例会 令和6年1月22日(第2057回) VOL.47 No.22

卓話

「2024年の不動産はどうなるか」

ネットワーク88 代表 幸田昌則さん

職業奉仕月間

今後の
例会予定

- ・ 1月29日(月) 卓話 日本銀行 福岡支店長 大山慎介さん(福岡RC)
- ・ 2月 5日(月) クラブ協議会「委員会半期報告」※各委員長発表
- ・ 2月12日(月) 休会

「季節の彩」



私には自宅から勤務先まで雨が降って受けていない坂道を下っては、アシスト
付の自転車で通って肌を感ずる。風を受けていない坂道を下っては、アシスト
節の移り変わりを楽しませてくれます。視覚的に暖かい季節
先の花々が目を惹きつけてくれます。視覚的に暖かい季節
運動場の周りを歩くと、春の香りが届きます。視覚的に暖かい季節
す。この写真も一つ、昨年春に筑後のお寺の庭先に撮った山手誠之助も

例会日…毎週月曜日 12:30~13:30 例会場・事務局…西鉄グランドホテル

TEL 714-0305 FAX 714-0311 E-mail fukuoka-chuo-rc@wind.ocn.ne.jp HP <http://www.fukuoka-chuo-rc.jp>

前週例会の記録(1月15日)

出席報告

前回例会 1月10日	前々回例会 12月18日
会員数 51名	会員数 52名
出席会員 38名	出席会員 39名
ビジター他 0名	修正 2名
合計 38名	免除 2名
出席率 74.51%	修正後出席率 82.00%

-サインMU-

福岡RC6名・福岡南RC1名・福岡東RC3名
福岡城南RC1名・博多イブニングRC3名
福岡城西RC13名・福岡北RC2名・小倉北RC1名
計 30名

ロータリーソング

河野 晶 ロータリーソング委員長

・君が代 ・奉仕の理想

会長の時間

怡土 順治会長



[会長の時間]

皆さん明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。先ほど黙とうを捧げさせて頂きましたが正月より能登半島地震が発生しました。これ以上被害が大きくなることを祈るばかりです。来週の例会より募金箱を設置させていただきますのでご協力をお願いいたします。本日は新年会で私の挨拶がありますので会長の時間はここまでにしたいと思います。

[開会挨拶]

改めまして、みなさま明けましておめでとうございます。新年初頭ですので、ロータリーの始まりと職業奉仕について少しお話ししたいと思います。先ずは、ロータリーの始まりについて。1900年代初頭のアメリカシカゴの街、当時人口が100万人を超える大都会であったわけですが、その人口の80%が外国人や移民の方であられる街であったのです。では、なぜそんなに沢山の人が集まってきたのか？ビジネスチャンスがあったと言われた街だったのです。一攫千金を狙える街だったとも

言われた訳ですが、そんな方々に限って法律にさえ違反しなければ人を騙してでも自分が儲かればいい。逆に騙された方が悪いという発想を持つ方が多かったのです。つまり、安心して商売が出来なかったわけです。そんな街を1900年の夏に友人弁護士であるボブ・フランクと一緒に歩いていた時、フランクが色んなお店の人達と楽しそうに話しているのです。そして、ハリスにも紹介してくれたりしたのでした。また、ポールハリスにとって、育ての親であった祖父母が亡くなってしまっていて、寂しかった時期でもあったのです。そこで、ハリスは安心して商売出来る仲間が友人関係にもなる集まりを作ろうと考えたのです。それから、5年後の1905年2月23日に3人の仲間と共に1回目の会合を開き、これがロータリーの始まりとなったのです。では初めから現在のような奉仕団体であったか？と言うと全く違う集まりでした。開設当初のシカゴクラブは秘密結社の如く商売に特化した集まりであったと言われていました。会員同士で商品や原材料を原価で取引し、それに利益を乗せて一般の人達に売っていたのです。また、一業種一会員制ということでなかなか入会する事が出来ないクラブでしたので、シカゴクラブにさえ入会出来れば、どんな人でも大金持ちになれると言われたのです。ただ、そんな商売のやり方に一般の人からも、会員の中からも批判的意見が出始めたのです。そこで、ドナルドカーターの入会拒否事件を機にロータリーの目的にサーヴィス(奉仕)の概念を取り入れたのです。その概念を吹き込んだのがアーサーシェルドンであったのです。それは1908年の出来事でした。では、シェルドンが掲げていたサーヴィス(職業奉仕)の概念とは一体どんなものであったのか。シェルドンはロータリアン一人ひとりが奉仕の心を持って、自分の職場や地域社会の人々の幸せを考えながら、職業人としての生活を歩むことであると考えました。すなわち、クラブ例会で会得した高いモラルに基づく「奉仕の心」で仕事を行いその考えを業界全体に広げていくことが、全ての人々に幸せをもたらす、それが地域社会の人々への奉仕につながることを確信していたのです。

「He profits most who serves best」
最もよく奉仕する者 最も多く報いられる
皆様も聞かれたことがあると思います。ここにいる会員皆様は業界を代表するベストオブベストの人達です。これからもこの職業奉仕の心をもって活動していきましょう。本日の挨拶はこのくらいにしたいと思います。